

# 令和4年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立川口特別支援学校)

\*学校関係者 評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえ評価を受けた日とする。

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者とともに、児童生徒の力を伸ばす学校</li> <li>・人生をより豊かに生きる力を育む学校</li> <li>・保護者や地域から信頼される、安心安全な学校</li> </ul>
--------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校関係者	名
生徒	名
事務局 (教職員)	名

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童生徒の発達と障害特性、生活年齢及び将来像を見据えた授業づくりとキャリア教育を進め、教育課程の充実を図る。</li> <li>2 家庭・地域・専門家・福祉関係者との連携を密にして日々の指導・校内支援の充実を図るとともに、センター的機能を充実させながら、校外支援を進める。</li> <li>3 緊急時・災害時に備えるとともに、感染症予防対策を十分に行い、安心安全な学校づくりを進める。</li> <li>4 「一人一人を大切にす学校づくり宣言」に基づき、人として生きる権利、幸福を追求する権利を大切にし、一人一人の人権を尊重した教育活動を進める。</li> </ol>
------	--

学校の自己評価					学校関係者評価				
年度目標					年度評価 (令和年月日現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策	実施日 令和年月日	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<p>発達・障害特性・生活年齢と将来像を見据えた授業づくりを進めている。カリキュラムマネジメントを踏まえ、授業担当者、学部ブロックの話し合いを丁寧に進めるとともに、学部ブロック研修や年次研修該当者の研究授業と研究協議を通し、日々の授業づくりと指導内容を充実させている。小低では日常生活の指導、小高では給食室と連携した「おしごと学習」や係活動、中学部では作業学習と頒布活動、代表委員会活動等に取り組んでいる。「キャリア発達段階表」や小中学部校としての「進路指導計画」、各学部の生活年齢を踏まえて各学部の教育実践を整理し、充実させる。</p> <p>改訂した「学校教育目標」「目指す学校像」「学部教育目標」等を踏まえて教育実践を進めるとともに、研修・教育課程部、教育課程検討委員会を中心に各学部ブロックで検討を行った。各学部ブロックで日課表、行事等の見直し、「教育課程まとめの会」でその内容を共有した。ライフキャリアの視点を全教職員で共有し、現在進めている教育実践と教育課程を整理し、充実させる。改訂された学習指導要領について理解を深め、小中学部校としての一貫性のある教育課程づくりを行う。</p>	<p>児童生徒一人一人の発達・障害特性・生活年齢と将来像を見据えた授業づくりとキャリア教育を進める。</p> <p>学習指導要領とライフキャリアの視点から小中学部校としての教育課程づくりを行う。</p>	<p>・カリキュラムマネジメントを踏まえ、日常的な教職員の話し合いと共通理解を大切にして授業づくりを進める。年間を通して計画的に全校研修・学部ブロック研修を実施する。年次研修を中心とした授業研究を行う。</p> <p>・研修等を通して児童生徒の将来像とライフキャリアについての共通理解を深める。学校教育目標、学部目標、「時期の特徴」等を踏まえ、「進路指導計画」「キャリア発達段階表」を参考に日々の授業を充実させる。</p> <p>・全校研修テーマに基づき、全校研修、学部会、学部研修を通し、「学校教育目標」「学部目標」「時期の特徴」等を踏まえ、「キャリア発達段階表」「進路指導計画」を参考に教育課程づくりを進める。</p> <p>・本校としてのライフキャリアのイメージを共有するとともに、現在進めている教育実践を整理し、「研修まとめの会」を通して全教職員で確認する。</p>	<p>・日常的な教職員の話し合いと授業研究等を行い、「個別の指導計画」に基づく一人一人の発達・障害特性・生活年齢を踏まえた授業づくりと指導・支援の充実が図られたか。</p> <p>・児童生徒の将来像とライフキャリアについての共通理解を深め、ライフキャリアの視点から日々の授業の充実が図られたか。</p> <p>・改訂した教育課程に基づき、教育実践を進めるとともに、検証を行い、改善することができたか。</p> <p>・ライフキャリアの視点から、「学校教育目標」「学部目標」「時期の特徴」を踏まえ、「キャリア発達段階表」「進路指導計画」を参考にこれまでの教育実践を整理し、小中学部校としての教育課程の充実が図られたか。</p>					
2	<p>学級担任を中心に保護者との共通理解を丁寧に進めるとともに、学校評価アンケート等を参考にし、日々の指導の充実をさせている。「教育相談組織図」を作成するとともに学部コーディネーターを位置付け、校内の教育相談の流れを整理した。個別ケースで日常的に、管理職、関係者で情報共有し、外部関係機関を含めた支援会議を実施するなど必要な対策を講じた。保護者との共通理解を図りながら、組織的な支援を進める。</p> <p>特別支援教育コーディネーターを中心に巡回相談で教育相談を行うとともに、適正な就学相談を実施している。小中学部校としての地域との連携を深め、児童生徒の将来像を見据え、進路に向けた取り組みを充実させる。</p>	<p>保護者、関係者、関係諸機関と連携し、日々の指導及び校内支援の充実を図る。</p> <p>センター的機能を充実させる。</p>	<p>・保護者との共通理解を進める。</p> <p>・外部講師と連携し、児童生徒理解を深め、指導を行う。関係諸機関と連携し、校内支援、家庭支援を行う。</p> <p>・学部コーディネーターを位置付けた校内体制を機能させる。校内委員会を実施し、指導・支援について共通理解を深める。関係諸機関と連携し、支援会議を行い、指導・支援の充実を図る。</p> <p>・関係諸機関、各学校と連携し、地域ネットワークづくりを進める。「就学相談担当者連絡会」を実施する。市教委との連携し、適正な就学・転学、進路指導の充実を図る。</p>	<p>・保護者との共通理解を深め、児童生徒の指導・支援の充実が図られたか。</p> <p>・特別な支援が必要な児童生徒、家庭の支援体制を確立し、指導・支援の充実が図られたか。</p> <p>・外部講師、関係諸機関と連携し、児童生徒理解を深めて、日々の授業や指導の充実が図られたか。</p> <p>・関係諸機関と連携し、川口・蔵地区の特別支援教育の連携体制を充実させ、センター的機能を発揮して、適正な就学・転学、進路指導が実施できたか。</p>					
3	<p>緊急時対応研修、ヒヤリハット報告を徹底し、学期末にその検証を行った。指導上特別な配慮を要する児童生徒やアレルギー対策についての情報交換会を実施し、教職員間で共有した。アレルギー、てんかん発作等、特別な配慮を要する児童生徒の緊急時対応についての徹底を図る。組織、体制、対応策等を整備・確立する。授業内容の工夫や教職員による校内消毒等の感染症対策を徹底し、教育活動を充実させる。</p> <p>災害対策委員会を定期的に実施し、備蓄品の整備と新規購入、災害時用の服薬管理、伝言ダイヤル訓練等を行った。児童生徒用避難袋の整備を行う。引き渡し訓練の方法を見直し、教職員の防災意識を高める。全学級で実施した防災学習を徹底する。</p>	<p>感染症対策と事故防止を徹底し、安心安全な学校づくりを進める。</p> <p>緊急時・災害時対策を進める。</p>	<p>・消毒作業、児童生徒の健康管理、学習内容等の工夫により、感染症予防を徹底し、安心安全に向けた教育環境整備を行う。リスクマネジメントと危機管理の徹底を図り、企画委員会、アレルギー対策委員会等を中心に組織、体制、対応策等を整備・確立する。</p> <p>・危険事例等の情報を教職員間で共有するとともに、発生した事故については丁寧に分析し、再発を防止する。</p> <p>・教職員の防災意識を高め、避難訓練等を行う。</p> <p>・保護者と連携し、防災学習や避難訓練、引き渡し訓練を進める。</p>	<p>・危険事例や事故について全教職員で共有するとともに、日常的に安心安全のための教育環境整備が行えたか。</p> <p>・感染症クラスター及び児童生徒の重大事故を起こさないことを徹底し、0 (ゼロ) にできたか。</p> <p>・保健・安全部及び災害対策委員会を中心に、災害対策の充実を図ることができたか。</p> <p>・実践的な防災学習が行えたか。</p>					
4	<p>年度当初に「一人一人を大切にす学校づくり宣言」を職員会議で確認するとともに、外部講師による全校研修を行った。学部ブロックで人権を大切にす指導のあり方についての研修を行い、その内容を全教職員で共有した。教職員の人権に対する意識を高め、日々の指導に徹底する。発達・障害特性・生活年齢を踏まえ、人権尊重と合理的配慮を基本にし、教職員の共通理解とチームワークを大切にす教育活動を進める。</p>	<p>人権尊重に関する教職員の意識を高め、日々の教育活動に活かす。</p>	<p>・「一人一人を大切にす学校づくり宣言」の内容を職員会議で共通理解を図るとともに、人権や合理的配慮、生活年齢や障害特性に応じた指導のあり方についての全校研修を行う。</p> <p>・日々の教育実践を振り返るとともに、教職員間の連携を深め、児童生徒や保護者との信頼関係、共通理解を大切にす指導を行う。</p>	<p>・研修を通して、教職員一人一人が人権や合理的配慮、障害特性等について理解を深め、体罰・虐待、不適切な指導を0 (ゼロ) にできたか。</p> <p>・教職員間の認識の一致と共通理解により教職員間のチームワーク力を高められたか。人権尊重の意識づくりと適切な教育活動の具体化を図ることができたか。</p>					